

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400959		
法人名	有限会社サン		
事業所名	グループホームよろこび 1F		
所在地	愛知県名古屋市長区桶狭間北三丁目902番地		
自己評価作成日	平成26年11月17日	評価結果市町村受理日	平成27年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2371400959-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成26年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に掲げている「よ…寄り添いながら ろ…老後の こ…心を癒し び…美風ある住みかとする」を、職員一同が共有し利用者一人ひとりの意思を尊重し日々穏やかに生活できるよう努めている。1ヶ月に1回程、ボランティア団体が訪ねて来て下さり歌や踊りを楽しみ事があり利用者の皆さまには満足を得ている。
また、母体組織が病院であり精神面でのケア、隣接する医療機関では内科的ケアと人工透析が必要な方にも、十分な支援ができる体制になっている。関連施設も隣接しており色々な面での協力体制ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、その人らしい生活を送ることができるように、利用者と馴染みの方との交流を通じて外出支援等につなげている。日常生活の中でも、利用者が日常的に外出する機会をつくらせたり、作品作りを行う時間もつくる。ホームを運営している母体の医療機関では、複数の介護事業所を運営しており、その利点を活かした取り組みが行われている。運営推進会議を合同で開催しており、家族間の交流につなげたり、避難訓練を関連事業所との合同で開催することで、夜勤5名体制を活かす取り組みも行われている。職員間の連携についても、週1回の関連事業所の管理者間の会議が行われており、職員間の情報交換と必要な連携につなげている。地域の方との交流についても法人をあげて取り組んでおり、定期的に地域の方に向けた市民講座を開催する等、地域貢献にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に運営理念を掲げている。理念に添った介護提供ができるよう、日々話し合い共有し実践につなげている。	ホーム独自の理念をつくっており、理念をホーム内に掲示しており、職員が日頃から意識するよう取り組んでいる。また、職員一人ひとりに理念について振り返ってもらう取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(夏祭り、敬老会など)利用者と一緒に参加している。 散歩時のあいさつを心がけ、地域の一員として交流に取り組んでいる。	地域の公民館で行われている敬老会にホームからも利用者が参加しており、交流につなげている。また、関連ホームとの合同で市民講座を定期的に開催しており、地域の方にホームを知ってもらう取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年のように認知症や高齢者特有の病気などをテーマに市民講座を開催し、地域の人々の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、町内会長・民生委員・利用者のご家族・いきいき支援センター職員の協力にて、開催している。運営状況・行事の報告をし、また勉強会等も行っている。	会議は、関連ホームとの合同で開催しており、それぞれのホームから家族が参加しており、情報交換等にもつなげている。会議では、様々なテーマでの話し合いの他にも、会議を通じてソフト食を知ってもらう取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政が行う連絡会等に参加し情報を得ている。わからない事など問い合わせを行い、協力関係を築いている。また、変更届等、事務的な手続きで市の介護保険課に赴いた時には、会議内容の報告を行い、指導を頂いている。	ホームでは、必要な情報交換等については、ホーム管理者からの他にも法人事務局からも行われている。また、地域包括支援センターとの情報交換等にも取り組んでおり、家族介護教室の協力も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で勉強する機会を設け、身体拘束のないケアに努めている。 目の届くところに、拘束の具体例を掲示し意識するよう、取り組んでいる。	ホームは身体拘束を行わないであり、玄関の鍵も開閉が可能であるため、職員による見守りに取り組んでいる。また、法人全体で研修会を実施しており、職員の意識向上にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアのないよう、日々話し合い注意するよう防止に努めている。 虐待に関する事例を掲示し意識づけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用する機会がないため一部の職員のみ の学びになっている。今後、学びの機会をつ くりたい。 資料の掲示は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約時、不安や疑問を聞き、十分説明し納 得したうえで、契約・入所につなげている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	意見箱の設置はもちろん、面会時には必ず 声を掛け、意見・要望等に耳を傾けるよう心 掛けている。 問題点等を、すぐに対応し運営に反映させ ている。	ホームの行事の際には、家族にも案内を 行っており、家族間の交流に取り組んでい る。玄関には意見箱を設置しており、意見等 の把握に取り組んでいる。また、毎月、ホー ム便りを発行しており、個別の報告も行われ ている。	ホームの行事には、家族にも案内を 行っているが、訪問する方が限られて いる。多くの方の参加が得られるよう に、今後の取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、リーダー会議、管理者会議、 全体会議の定期開催時、また日々の申し送 り等で意見や提案を聞き話し合い、反映さ せている。	職員会議が毎月行われている他にも、管理 者会議が毎週行われていることで、職員から の意見や要望等の把握と反映に取り組んで いる。また、日常の申し送りの時間もつくっ ており、職員間の情報交換等につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	担当利用者を決め、各自が向上心を持って 働くよう環境づくりに努めている。 能力・経験に基づいた賞与査定制度を実施 している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	経験、能力に応じた研修への参加。研修内 容の共有と実践に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	研修等、参加し意見交換する機会を作っ ている。同業施設へのボランティアを行い、交 流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて、十分把握するよう努めている。利用者、家族の要望を聞き、また情報収集を行い、職員と共有し安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時はもちろん、導入後も家族が困っている事・要望に耳を傾け話し合い、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と面談時、必要としているサービスを見極め、対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活用し見極め、その人と一緒に行うよう努めている。 信頼関係を持ち、思いを共有し理解する事で、本人と過ごし支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はもちろん、毎月の便りにて状況を報告し、情報交換している。 行事への参加をお願いし、一緒に過ごす機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出と自由にできる様、支援している。 友人・知人の面会時、ゆっくりしていただけるよう配慮をしている。	利用者の馴染みのある知人がホームに訪問する等、関係を継続している方もおり、その方の馴染みの場所に出かける取り組みも行われている。また、家族との外出の際には買い物や食事の他にも、自宅に戻って過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、良い関係作りにも努め、レクレーション等共有時間を作り、支え合うよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様に会った時には、その後の様子等聞くようにしている。 また、相談があれば誠意をもって対応するよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の把握、日々のコミュニケーション、表情、行動から思いを推察し、ご本人の意向に添うよう努めている。	職員は、担当制で利用者の思いや意向等の把握にも取り組んでおり、把握した情報は毎月の便りの作成にもつなげている。毎月のカンファレンスの際には、一人ひとりの状況等を話し合っており、職員間で思いや意向等の共有に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人・ご家族様から情報収集している。日々の会話の中でも、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、記録から心身の状態の把握に努めている。また、バイタルチェックや顔の表情・行動等からも心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見・意向を重視した介護計画の作成をしている。3段階評価を行い、ニーズに応じ見直しも常に行っている。	介護計画書の中に記号を付けていることで、計画内容に合わせた日常的な記録に取り組んでいる。日常的な把握とカンファレンスを通じて、3か月毎のモニタリングを行っており、6か月での見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3段階評価でわかりやすく記載、特変等があれば必ず記録し、情報の共有、実践、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況・ニーズに応じ柔軟な支援を心がけるよう、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り、敬老会に参加させて頂いている。要望があれば、近くのスーパーへの買い物の支援を行っている。 1～2ヶ月に一回、歌や踊りのボランティアも来て下さり、楽しむことが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に添うよう、かかりつけ医の受診を支援している。希望がない場合は協力医療機関での受診の支援を行っている。	ホーム協力医による定期的な訪問診療が行われているが、夜間や休日については、救急対応になることもある。協力医療機関については、ホームによる受診支援が行われており、関連医療機関の看護師による健康チェックが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師、訪問看護師に気づきがあれば伝え相談し、適切な対応をすることができるよう努め、利用者が安心して生活できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携は、密にとっておりスムーズな受診、入退院が出来る様、利用者の負担軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、本人・ご家族より意向を聞き、終末期に向けたケアをチームで支援するよう取り組んでいる。	ホームでは、現状、重度の方も受け入れホームで生活しており、ホームでできる支援を行っている。家族とは、段階に応じた話し合いが行われており、現状、医療機関への入院となる方が多い。	職員による介助も増えている現状があるが、できる支援に取り組んでいる。継続した職員間の取り組みを通じて、より良い終末期に向けたケアにつながることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で応急手当、初期対応の研修を繰り返し行い、実践力を身に付けるよう、努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、4月・11月と年間2回行っている。夜間想定と日中想定と交互に行っている。近隣との協力体制も整っている。今後、地震・水害等を想定した訓練を行いたい。	ホーム単独の訓練の他にも、関連ホームとの合同での訓練も行われており、夜間を想定している。地域の方との関係づくりに向けた取り組みも行われている。また、備蓄品については、ホーム内と関連有料ホームに確保されている。	ホームは、関連ホームを含めて5名の夜勤者が勤務しており、ホームの強みでもある。合同の訓練を継続しながら、緊急時の連携が柔軟にできることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、人生の先輩として尊敬の念を忘れず、言葉かけには十分注意し対応している。	職員には、利用者を人生の先輩として接するように伝えており、管理者や職員間での日常的な注意喚起にも取り組んでいる。また、合同会議の機会の中で、外部講師を招いた接遇面に関する研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の思いや希望を聞くよう心がけている。 話しやすい環境を作り、自己決定しやすいよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを把握し、会話の中から思いをみつけ、希望に添った対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、NPOの理美容をお願いしており、その際には本人の希望の髪型にしたり、本人主体で服を選んで頂いたり、外出時にはその人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に数回の昼食作りがあり、日々の会話で好きな食べ物を聞き、メニューに取り入れ一緒に作り、食事を楽しむ支援をしている。 また、できる方には食器洗い、下膳等の役割をして頂き意欲の向上の支援をしている。	食事については、日常的には外部の業者から提供されているが、月に1~2回程度、ホーム内で食事をつくる日(クッキングの日)をつくっている。また、おやつ作りを日常的に行ったり、行事に合わせた行事食の取り組みも行われている。	ホーム内で食事作りを行う日が、様々な状況から少なくなっている。利用者が日常生活の中で食事作りに参加できる機会が増えるような取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎食記録し、把握している。 減塩・カロリー等の制限食や状態に応じミキサー・刻み食等、対応している。 また、水分制限のある方には、チェック表を利用し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。 また、週に一度、訪問歯科があり口腔内の掃除、必要に応じ相談・指導して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、尿意のない方には、時間誘導し、トイレ内での排泄を促す。リハパン・パッドの使用量を減らすよう支援している。	利用者の排泄状態をチェック表に記録に残しながら職員間の情報の共有につなげており、利用者がトイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。昼間と夜間で対応を変えたりもしながら、排泄状態が維持できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表があり毎日の排便の確認を行っている。食事、水分はもちろん適度な運動を心がけ、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間はある程度決まっているが、順番等、本人の希望を取り入れ体調面には十分注意し、柔軟に対応できるよう支援している。	ホームでは、月曜から土曜日まで入浴を行っており、利用者の希望に合わせて実施されている。重度の方には、職員複数体制による介助も行われている。また、入浴剤を使用したり、外のお風呂に入り出かける楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じ、いつでも休息できる対応している。夜の良眠に向け、日中の活動を促し生活のリズムを保つことができるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報にて一人ひとりの服薬の把握に努めている。誤薬、飲み忘れのないよう、確認作業を二重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の好きな事、興味のある事を把握し日々の生活の中に取り入れている。買い物に出かけたり、散歩に出かけたりと気分転換の支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩はもちろん、年に数回遠足・食を計画し実践している。家族への参加も毎回促している。	利用者が日常的に外出できるように、ホーム近くの公園に出かけたり、買い物や喫茶外出等が行われている。また、季節に合わせた花見や初詣等の外出や、年1回の遠足行事も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したいという利用者の希望は現在なく、管理は家族の了承のうえ施設側にて管理している。個々におこずかい帳作り、月の終わりには本人にも確認して頂き、拇印をもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話が出来るよう支援している。利用者の中には携帯電話を所持している方もおられ、いつでも家族と連絡を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に季節に応じた飾り付けを行っている。カーテン、椅子を落ち着いた色で統一しており心地よく過ごせるよう、配慮している。	リビングの壁は、落ち着いた色彩で広さも確保されているため、利用者は、ゆったりと過ごすことができる環境である。また、折り紙や習字等の利用者の作品や季節に合わせた飾り付けも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、ダイニングテーブル、多目的空間にて自由に過ごして頂いている。気の合った利用者同士、ソファにて楽しく会話したり、TV鑑賞したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方に使い慣れた家具等、持参して頂いたり、家族写真、飾り付け等工夫し、居心地よく過ごせるよう支援している。	居室内にはベッドやクローゼットが備え付けられているが、利用者や家族の意向に合わせた持ち込みも行われている。居室には、テレビや家具類の他にも、家族の写真や自身の作品を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわかりやすいよう貼り紙をしてわかりやすくしている。居室前にはネームプレートがあり、写真など好きなカードを飾り、混乱しない様にしている。手すりを使用しリハビリの支援も行っている。		